

3.13 房総石造文化財研究会主催 見学会「旧本埜村の石仏を探る」

案内：蕨 由美

日時：2016年3月13日（日）集合：印西市本埜支所 9時40分

コース：

- 【中根】 戸崎観音堂（武蔵型板碑数基）→
福聚院（寛文九年銘などの十九夜塔群）→
鳥見神社手前の路傍（花見堂地蔵）→ 昼食（千福寿司）
- 【笠神】 笠神社（百庚申）→蘇羽鷹神社（百庚申）→
南陽院（三義人碑）→御堂（十九夜塔）→
熊野神社（十九夜塔子安塔群）→ 向公会堂（庚申塔群）



旧本埜村の笠神地区と中根地区について

東側には印旛沼および広大な水田地帯、西側には北総台地が広がる旧本埜村は、1913年（大正2年）4月に本郷村、埜原（やわら）村が合併して成立した村でした。

明治の町村制施行で1889年（明治22年）4月に成立した本郷村は、中世以前の旧家が台地の周辺に位置する笠神村や中根村、滝村、龍腹寺村、物木村、荒野村などの村々が合併、一方、埜原村は江戸時代の印旛沼干拓により成立した16の新田が合併した村でした。

1997年（平成9年）3月 千葉ニュータウンの一部として開発が進み、2010年（平成22年）3月、印旛村を共に印西市に編入合併しました。

本埜地区の利根川と印旛沼が合わさる広い内海に突き出した独立台地上には笠神城があり、中世村落の最前線でした。

逢善寺文書の記述に、14世紀末「有徳ノ在家ノ仁」とよばれる「印西ノ笠上又太良禅門等ノ類」が出てきますが、笠神の地で「香取の海」の重要な航路を支配していた有力者のことと思われます。

笠神城跡の台地上西端の蘇羽鷹神社には戦国時代の遺構かと思われる物見やぐら跡や大きな堀跡が残り、東側には領主の館跡であろう南陽院の境内があり、その下には「船戸」の集落、西麓には「根古屋」の集落と笠神社があります。

笠神に隣接する中根集落の背後の長く伸びた尾根上の古道ぞいには、戸崎観音堂、福聚院と鳥見神社があり、福聚院には、鎌倉時代初期の作と思われる阿弥陀三尊立像が安置され、印西市の指定文化財になっています。



中根の石造物

(1) 戸崎観音堂（中根観音堂）

伝説では、金売り吉次吉内兄弟が、陸奥との往来でこの近くを通った際に、強盗に襲われて横死し、吉次の持仏の観音を祀ったのが中根観音堂で、観音堂裏の武蔵式板碑群は、吉次の墓と伝えられている。

『利根川図誌』では、地元民が吉次の墳をつくり、木を植えたが、宝永元年の洪水で流され、その跡にできた沼が「吉次沼」とよばれようになったとのこと)

1. 庚申塔＝文政 12 年（1829） 文字塔
2. 時念仏塔＝明和 5 年（1768） 大日如来像塔
3. 地藏像塔＝宝暦 8 年銘（1758） 女性名多数あり
4. 武蔵式板碑＝建武 2 年（1335） 阿弥陀三尊種字を刻む
5. 武蔵式板碑（断碑）＝元亨 2 年（1322） 阿弥陀三尊種字・光明真言梵字を刻む
6. 武蔵式板碑（断碑）＝嘉元 4 年（1306） 花瓶線彫あり

そのほか、年不明の板碑と断碑が 5 点、計 8 点ある。



2. 時念仏塔（明和 5 年）



4. 板碑（建武 2 年）



5. 板碑（元亨 2 年）



6. 板碑（嘉元 4 年）

(2) 福聚院

1. 十九夜塔＝「奉納拾九夜念佛／為二世安樂 同行十一人／寛文九（1669）己酉天／十月十九日 中根村」銘 精巧で美しい六臂如意輪観音像塔
2. 十九夜塔群 15 基
 - ・二臂如意輪観音像塔＝延宝 5（1677）・貞享 4（1687）・元禄 3（1690）・宝永 4（1707）・宝永 7（1710）・正徳 4（1714）・元文 3（1738）・元文 5（1740）・文政 6（1823）・天保 11（1840）の 10 基
 - ・文字塔＝宝暦 1（1751）・文政 1（1818）・明治 10（1877）・明治 31（1898）・大正 10（1921）の 5 基

3. 観音霊場巡拝塔＝元禄 16（1703）年「奉西国坂東秩父百ヶ所巡礼成就」銘 角柱型
4. 宝篋印塔＝「三界萬靈／童男 童女引導之精靈等 ○靈／大乘 妙典 奉讀誦 二千部餘／明和七（1770）庚寅天閏六月上九日 権大僧都法印唱香」銘（塔身が逆さ）

			
1. 十九夜塔（寛文 9 年）	2. 十九夜塔（延宝 5 年）	2.十九夜塔（貞享 4 年）	4.宝篋印塔（明和 7 年）

（3）鳥見神社先路傍

1. 地藏像塔（花見堂地藏）＝銘「花見堂地藏尊／寛延二己巳（1749）三月三日 同行十人」
2. 地藏像塔（丸彫・銘なし）
3. 地藏像塔（花見堂地藏）＝銘「奉供養花見堂地藏尊／宝暦十庚辰天（1760）三月三日」

		<p>☆花見堂地藏の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ①小型の地藏像に「花見堂」などの銘がある ②造立日が三月三日や三月吉日が多い ③「童男童女」「子供中」等の子供が関わる銘あり <p>☆時期＝18 世紀初頭から 19 世紀初頭の約百年 宝永 5 年（1708）～文化 9 年（1812）</p> <p>☆分布*（「花見」の銘のあるもののみ） 印西市 17（印西地区は習志野市への移設を入れて 10、本埜地区はこれを入れて 4、印旛地区 3）、 白井市 9、八千代市 1、柏市 1、計 29 基</p> <p>*木原律子「印旛沼北西部における花見堂地藏」『房総の石仏』第 21 号、『会報』111 号のデータに追加</p>
1. 花見堂地藏（寛延 2 年）	3. 花見堂地藏（宝暦 10 年）	

笠神の石造物

(1) 笠神（かさがみ）社

笠神城跡の西麓で、中世からの集落「根古屋」にあり、幕末建立の百庚申が壮観。

1. 庚申塔＝享保 7 年（1722）の青面金剛像塔をはじめ、江戸後期の文字塔 4 基、計 5 基ある。

享保 7 年塔は、いわゆる「生首持ち青面金剛像」で、二童子がつく。

2. 百庚申＝慶應元年～3 年（1865～7）の三年間に建立された青面金剛像塔 18 基、「庚申塔」銘の文字塔 77 基、計 95 基が並ぶ。大きさは、像塔が高さ 60 cm 前後、文字塔が 48 cm 前後で、いずれも駒型である。

- ・慶應元年＝11 基（像塔 2 基：文字塔 9 基）
- ・慶應 2 年＝34 基（像塔 7 基：文字塔 27 基）
- ・慶應 3 年＝33 基（像塔 8 基：文字塔 25 基）
- ・年不明＝17 基（像塔 1 基：文字塔 16 基）



1.庚申塔（享保 7 年）



2. 百庚申（慶應元年）



2. 百庚申（慶應 2 年）



2. 百庚申（慶應 3 年）

2012 年 3.11 の大地震後に、倒れていた百庚申を建てなおし、現在はコンクリートの基礎に据えられているが、元の並び方の順は不明。損傷した石塔が片隅に寄せ集めてあり、これを復元すればおそらく元は 100 基あったと思われるが、現在は、百庚申以外の 4 基を入れて、ちょうど 100 基となる。

また、像塔と文字塔の割合は、18 : 77 とほぼ 1 : 4 の比率なので、像塔 1 基に文字塔 4 基の単位で連続して並べられていたと思われる。

石塔脇の寄進者と思われる銘は、「船戸 根子屋 講中」（「舟戸」や「根子谷」の表記もあり）が 17 基、個人名が村内 42 名、村外が 13 名、無銘または不明が 23 基である。

百庚申以外の 5 基の庚申塔のうち、145 cm の高さの文字塔の建立日銘「慶應三卯年十一月吉日」は、百

庚申の三年目の慶応3年の建立月日と同じで、また台石に33名の人名が刻まれていることなどから、百庚申完成供養を目的に、百庚申の中尊として建立されたのではないかとと思われる。

(2) 蕪波鷹（そばたか）神社

笠神城の物見台の跡が残る境内に、近代の百庚申が並ぶ。

1. 庚申塔＝享保18（1733）年「南無青面金剛尊／同行三十人」銘
2. 百庚申＝高さ41～51cmの駒型の文字塔（銘「庚申塔」）54基と青面金剛像塔6基の計60基、左面に寄進者名、右面に建立年月日を記す。

百庚申には40基足りないが、山上の狭い境内両脇に整然と並ぶ姿は壯観である。

- ・明治16年（1883）銘は、文字塔5基、像塔1基の計6基
- ・明治33年（1900）銘は、文字塔17基、像塔2基の計19基
- ・昭和10年（1935）銘は、像塔3基のみであるが、年銘のない24基も昭和10年と推定される。



1. 庚申塔（享保18年）



2. 百庚申（明治16年）



2. 百庚申（明治33年）



2. 百庚申（昭和10年）

(3) 南陽院

笠神城跡の東側中腹の館跡と推定される曲輪にあり、元禄15年(1702)創建と伝えられている。

1. 庚申塔＝天保3年（1832）銘 青面金剛像塔
2. 廻国塔＝享保12年（1727）銘 延命地藏坐像塔
3. 新四國霊場（印西大師）勸請記念碑＝「昭和乙亥」年（1935か）建立 高さ3.6m 平石型

笠神の南陽院、平賀の来福寺、師戸の廣福寺と印西組信徒中による建立で、裏面には白井市域と印西市域を網羅する地区名と寄進者人名を25段にびっしりと記す。

4. 三義人顕彰碑「三義侠者碑」＝明治 24 年（1891）12 月 2 日建立 高さ 1.9m 自然石型

この笠神村の三義侠の碑は、印旛沼周辺の低地部の開発が盛んになった正保・明暦期、小林村との入会地「埜原」の帰属をめぐる闘争を物語る石碑である。中世では当然の実力闘争も、江戸前期は幕府による懲罰が不可避で、その犠牲となった「義人」を当時は供養を続けるのみで建碑はかなわなかった。

明治 24 年にこのような立派な顕彰碑が建てられた背景として、佐倉惣五郎事件が膾炙したような自由民権思想の高揚が見て取れる。篆額の武藤宗彬は千葉郡長、撰文并書の須藤元誓は俳人半香舎五世梅里。

（銘文と写真は別紙参照）



「三義侠者碑」の碑文の大意

「江戸時代正保～明暦の頃（1644～1657）、笠神村に 3 人の義侠者があった。笠神と言うところは平坦で肥えた土地が丘をめぐり、東北は利根川印旛沼に臨んだ村であったが、地続きに蘆や萩の繁る原野があり、埜原（やわら）と呼ばれていた。隣接する笠神村と小林村の農民にとっては田畑の肥料とする草木を供給する重要な土地であり、その帰属を巡ってしばしば紛争の原因となっていた。正保 2 年（1645）4 月、幕府の役人が検分し、笠神小林両村の入会とすべし、と裁許したが、両村の争論は絶えなかった。ここ笠神村に豪邁不羈を以て鳴らす 3 人の農民があった。すなわち、鈴木庄吉、岩井與五兵衛、岩井源右衛門である。3 人は笠神村の意思を弁論し、慣習を正そうと小林村に赴いたところ、竹槍の様な物を持った農民に囲まれ捕らえられてしまった。3 人は奮然と挺身格闘し、数人を殺し、或いは傷を負わせ蹴散らした。このことを知った幕府は 3 人を死刑(磔)に処したが、笠神村の主張は通り、笠神村地続きの埜原は笠神村に帰属することとなった。埜原の地には堤が築かれ豊穰な耕地となった。今の埜原村がこれである。笠神村の本郷の耕地も 103 町 8 反余が増加した。以来、笠神村の農民は己の身を捨てて村の生命線を守った 3 人の農民の義挙を追憶して、毎年 10 月、十夜にわたり近隣の僧侶を集めて、読経説教の法会を催してきた。その為か、明暦から明治に至る 236 年の間、笠神村は、水害・干害・蝗害・飢餓に襲われたことがない。それもこれも 3 人の義侠者の勇氣ある行動によることである。」

（五十嵐行男著『印西地方史よもやま話』）

(4) 御堂

十九夜塔（如意輪観音像塔）＝

銘「奉造立十九夜念佛供養塔／宝暦十三癸未（1763）十一月吉日／同行〇〇人」

(5) 熊野神社（向辺田）

社殿の左下の小さな広場に、女人講関連の石塔 10 基が並ぶ。

1. 十九夜塔＝延宝 5 年（1677）10 月 19 日、「十九夜女人」銘 如意輪観音像塔
2. 女人講供養塔（十九夜塔か）＝延宝 6 年（1678）8 月 19 日
「奉安置如意輪観音／結衆善女人」銘 如意輪観音像塔
3. 十九夜塔＝享保 20 年（1735）10 月 19 日、「奉供養十九念佛／二世安楽所」銘 如意輪観音像塔
4. 十九夜塔＝寛延 3 年（1750）11 月吉日、「奉供養十九夜尊」銘 如意輪観音像塔
5. 明和 4 年（1767）10 月吉日、「奉待十九夜供養」銘 如意輪観音像塔
6. 十九夜塔＝寛政 8 年（1796）11 月吉日
「奉待十九夜講中」銘 如意輪観音像塔
7. 十九夜塔＝文政 9 年（1826）12 月吉日
「十九夜／女講中」銘 如意輪観音像塔
8. 子安塔＝嘉永元年（1848）11 月吉日
「女人講中」銘 子安像塔
9. 子安塔＝慶應 2 年（1866）10 月
「女人講中」銘 子安像塔
10. 子安塔＝造谷真珠院・竜角寺・下曾根市
杵島神社に類型、明治 20～23 年頃と推定
11. 「栗島大明神」神塔＝社殿の右手前の祠内に祀られている



(4)十九夜塔（宝暦 13 年）



(5)1.十九夜塔（延宝 5 年）



(5)10.子安塔（明治中期）



(5) 11. 「栗島大明神」祠

(6) 向公会堂

享保 16 年から明治 24 年までの庚申塔 5 基のほか、廻国（地藏像）塔などがあり、うち宝暦 6 年の庚申塔は、所謂「生首持ち型」の青面金剛像塔で、享保 16 年塔もその類型である。

1. 庚申塔＝享保 16 年（1731） 「奉供養庚申」銘 駒型で像は日月と三猿のみ
2. 庚申塔＝延享元年（1744） 駒型 青面金剛像塔
3. 庚申塔＝宝暦 6 年（1756） 駒型 青面金剛像塔
4. 庚申塔＝文久元年（1861） 「青面金剛王」銘、角柱型文字塔
5. 庚申塔＝明治 24 年（1891） 自然石型文字塔
6. 二十三夜塔＝明治 10 年（1877）「奉待二十三夜塔」銘 自然石型文字塔
7. 廻国塔＝享保 18 年（1733）「日本回國」銘 丸彫型 延命地藏菩薩立像塔



「生首持ち型」の青面金剛像塔

☆流山市の三浦慶郎氏が調査し、大島洋一氏が「生首持ち型青面金剛」と提起した特徴点

- ・主尊の目がいわゆるアーモンド形で、右手に鈴状または人身の頭部らしき袋状のものをもち、宝輪を持つ手が直角で水平に伸び、迫力のない邪鬼がうづくまる

- ・三猿は、両端横向きで中央が正面向き。一列の平型または三角型に配置する。（『日本の石仏』148 号）

☆石田年子氏の報告（2014.8.2 石仏公開講座「北総の生首持ち庚申」）

- ・印旛・手賀沼周辺に限定してこの青面金剛像塔が 118 基、三猿文字塔が 17 基ある。
- ・享保 3 年（1718）から宝暦 12 年（1762）の 44 年間に限定される。
- ・上記期間の全青面金剛像塔の 25%を占め、印西市では 42 基（最近での筆者把握は 44 基）、次いで白井市で 23 基が確認される。